



楓の誉

R3. 4. 16(第1号)

文責：淵上 佳宏

新しい歴史と伝統のスタート

令和三年四月一日、合志中学校と西合志南中学校から分離新設した「合志市立合志楓の森中学校」が開校しました。私は、本校の校長を拝命いたしました。淵上 佳宏 と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

ご承知のとおり、三年生については、高校入試等へ配慮から、本校への転籍はなく、二年生九〇人、一年生二二〇人、計二一〇人の生徒、二二人の教職員で、新しい歴史と伝統のスタートとなりました。

四月八日(木)は、新二年生だけの登校でしたが、始業式において、次のような要旨の話を見せていただきましたので紹介します。



① 何事も「始まり」が肝心。しかし、何事も「初めて」は大変。様々な初体験や学校生活の変化に伴い、問題や課題、人間関係のトラブル等に出くわすかもしれない。これらは、一人一人にとって「ストレス」でもある。しかし、「ストレス」を乗り越えた人間は強くなる。「自信」が生まれる。また、「ストレス」を仲間とともに乗り越えようと、「友情」が生まれる。それは簡単には切れない強い「絆」である。ただし、耐えきれない程のス

トレスを抱えた時は、遠慮なくSOSを発信してほしい。そのために先生方がいる。頼ることも忘れないでほしい。

② この校舎は、旧菊池医療刑務支所の跡地に建設された。道路を挟んで隣には、ハンセン病の元患者さんが生活する菊池恵楓園がある。ハンセン病問題についての学習をさらに深め、恵楓園自治会の皆さんとの交流や恵楓園内でのボランティア活動などをおして、人権の大切さについて学び、心豊かな人間に成長してほしい。この合志楓の森中から、日本全国、世界へ向け、大切なメッセージを発信する役割を担える中学生になってくれたら嬉しい。

③ 皆さんは、小学校の六学年を含め、今年度八学年、来年度九学年の最高学年を務める。二年間も一番上の「お兄さん、お姉さん」である。下の学年、特に小学生には、優しく思いやりのある行動をとってほしい。皆さんの行動を小学生は見ている。そして、良いことも悪いことも真似をする。ぜひ「小学生に誇れる中学生」になってほしい。

入学おめでとうになります

四月九日(金)、真新しいブレザーの制服に身を包んだ一年生、二二〇人を迎え、合志楓の森中学校の記念すべき第一回の入学式を行いました。コロナ禍の中の制限がある式でしたが、みんな立派な態度だったと思います。また、新入生代表の田尻さんの言葉に感動しましたし、保護者代表の永清様には、新設校教職員として、とても有り難く心強いお言葉を頂きました。



本校教職員の紹介

校長	淵上
教頭	高橋
一年主任	町田
一年一組担任	緒方
一年二組担任	森
一年三組担任	矢野
一年四組担任	内田
一年副担任	坂本
一年副担任	上林
一年主任	深水
二年一組担任	小山
二年二組担任	光永
二年二組担任	井上
二年副担任	後藤
二年副担任	益崎
もみじ一組担任	平野
もみじ二組担任	川内
もみじ三組担任	坂井
養護教諭	橋爪
事務主任	岩木
教養活動指導員	川崎
教養介護補助員	佐藤
兼務	工藤
学校司書	堀田
用務員	田尻

学校だよりのタイトルについて

「誉(ほまれ)」とは「誇りとするに足りる事柄」を意味しています。これから楓の森中にたくさんのお話を載せたいと思います。これからの歴史と伝統を積み重ねたいとの願いを込め、「楓の誉」としました。